

JaDHRRA活動報告(2012-2013年)

- ・「木の家」ログハウス完成報告(代表・藤岡秀英)
- ・PhilDHRRAへのインターンシップ報告(神大・坂元健人)
- ・台風30号による被災地への募金のお願い
- ・2012-2013年会計報告(会計・山岡淳)



巻頭言・JaDHRRAの活動に寄せて ～ジャドラ代表を藤岡先生に引き受けていただくまで

矢谷慈國

『月刊愛農』2013年12月号に、「学生流むらづくりプロジェクト」という記事を私の追手門時代の卒業生坪井涼子さんが五頁にわたって取材掲載してくれました。藤岡さんが1999年以来八千代町(現兵庫県多可町)でやってこられた村作りに大学生と共に取り組んでおられる活動をよく描いています。

その記事で書洩らされている背景を書きます。藤岡さんは私の勤務していた追手門大学に非常勤講師として来ておられ、私と飲談する機会を島本さん(神戸大出身)が作ってくれ初めて語り合う時を持ちました。

そこで藤岡さんは「自分は「経済社会学」をやりたいのだが、専門でない社会学の有名な先生たちの本を読んでも納得のいく「社会の本質」についての説明に出会えない」という話をしました。私は即座に自分の師である蔵内数太の『社会学』を読んでみてください、と返事しました。彼はすぐに本屋で偶然ラッキーに見つけた上の本を読み、社会の本質は「我と汝の視界の相互性の体験」に見出せることを感動と共に理解しました。そのことをより深く学びたいと言って、追大の矢谷研究室に半年間内地留学をされました。

それから私が追大でやっていた、分尾キャンプ、野草を食う会、芋煮会、田端を学生と共に創る実践教育、ジャドラの活動などに参加したり現地を見たりしてくださいました。

2010年私の退職のあとをうけて、藤岡さんは私から「ジャドラ代表」の役割を引き継ぎ、ジャドラの活動の一環として、分尾キャンプ、多可町での田畑作り、ログハウス作り、植林など多彩な活動を私以上にダイナミックに展開してくださっています。

私は退職後、日本有機農家の全国組織「愛農会」の理事、アジアドラが作った「アジア農民組合(AFA)」に愛農会が正式加入したことにより国際部長の仕事と、92歳で亡くなられた蔵内先生が92歳まで論文を書き続けられた生き方にならって、毎年一本論文を書くこと、名張の私の持ち山にログハウス、放置された水田跡で米野菜作り、小規模水力発電などの「自給自足」の場所づくり、茶作りと、野草を食う会、芋煮会、陶芸教室などを楽しんでいます。皆さんもぜひ愛農会と愛農高校、私の山におたずね下さい。歓迎いたします。



2012-2013年の活動概要

2012/12	餅つき
2013/2	フィリピンスタディツアー
2013/5	ASABAN祭(亜麻の織物の普及事業)
2013/6	亜麻の収穫
2013/6	田植え
2013/7	兵庫県香美町への調査旅行(農村における新事業の模索)
2013/8	分尾キャンプ
2013/9	稲刈り
2013/9	加古川コットンプロジェクト講演(藤岡)
2013/9	「木の家」ログハウス完成式典
2013/10	脱穀・新米を食う会
2013/11	兵庫県多可町観音寺にて植林活動

木の家のログハウス完成報告

JaDHRRA代表 藤岡秀英

AAAAA

フィリピン・PhilDHRRAへのインターンシップ報告

神戸大学経済学部 坂本健人

私は、2013年の4月～10月の約6か月間、フィリピン・マニラにあるNGOでインターンシップをしていました。フィリピン支部PhilDHRRAの監修のもと、PhilDHRRAを含む計三つのNGOで、インターンシップを体験しました。

私がフィリピンのNGOにおいてインターンシップに参加した動機は主に2つあります。一つ目は、自分自身の将来についてじっくり考えるためです。私自身、海外インターンシップを運営する団体に3年間所属しており、そこでの経験から、ずっと国際協力や、非営利組織の活動に興味を抱いておりました。しかし、日本でただ学生生活を送るだけでは、自分が抱いていた興味を確かめることができず、そこで思い切って大学を休学し、長期で海外に身を置くことで、実際にその興味が本当に自分の将来を形作るものとなるのかを確かめたかったのが大きな理由です。二つ目は、自分自身の成長のためです。具体的に、語学力、そして自分が日頃感じている弱みを、海外のNGOで外国人と働くという機会に飛び込むことで、克服し、強みに変えたいと思いました。

現地での具体的な活動として、一つ目のNGO(PhilDHRRA)では、ネットワーク下にあるNGOへの電話やメールによる活動状況に関する情報収集と整理と、農地改革推進キャンペーンのプロジェクトの一メンバーとして活動していました。二つ目の

NGO(FDA)では、実際にマラボンという都市のスラムのコミュニティーを訪問し、インタビューを行い、現状の都市スラムにおける問題点を英語でレポートにまとめる作業をしていました。三つ目のNGO(ISO)では、コミュニティーリサーチの手法を学びながら、漁村地域を訪問し、調査を行い、現地の問題点とその改善策を模索し、自NGOにプログラム案を、提案していました。

以上の活動から、私はこの6か月のインターンを通して以下の成果が残せたのではないかと考えています。一つ目は、「自分自身の幸せとは何か」について異文化に身を置くことで新たな気づきを得ると同時に、深く考えることができたことです。「生活の豊かさ=幸せ」にはならないことは、実際に現地へ赴き、数多くの貧しい人々と接することで、身に染みて感じました。二つ目は、外国人という違った立場から、NGOの活動の中で意見を発し、影響を与えることができたことです。ISOにおける最終プレゼンで、私が提案した活動案を実際の活動として検討してもらえたと同時に、自分自身が活動で得た気づきを共有することで、フィリピンの人たち自身も考えるきっかけを生み出すことができました。

私はこの半年間で、数多くのことを学び、経験することができました。まだまだ伝えたいことはたくさんありますが、この機会を与えてくださった、藤岡先生、フィリピンの各NGOの方々には本当に感謝しています。私にとって、このフィリピンでの体験は自分自身の人生を良い意味で揺るがす有意義なものであったと強く思います。

台風30号によるフィリピンの被害状況と募金のお願い

2011年11月にフィリピンのビサイヤ地方を襲った台風30号による被害は、既にニュース等で皆様ご存知かと思われます。今回の台風では死者数が五千人を超え、現在もなお300万人近くが避難生活を余儀なくされています。

被災地では復興に向けた取組みが進められており、現在、生活インフラの再構築や、漁村における漁船や漁具の支援、農村における農地の復旧作業などが行

われています。JaDHRRAがスタディツアーでお世話になっているPhilDHRRAもまた関連NGOとともにこうした取組みを行っています。

そこで、JaDHRRAは、会員の皆様に災害復興のために募金を募り、Phil DHRRAの活動へ寄付をおこないます。会員の皆様、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。詳しくは次頁をご覧ください。



漁村開発の活動



プレゼンテーションの様子



洪水により流された集落



洪水の高さはヤシの枝葉にも達した

2012-2013年会計報告

JaDHRRA会計 山岡淳

2012-2013年(10月 始まり9月締め)の会計 報告をいたします。	収入			支出		
	用途	小計	細目別	用途	小計	細目別
前年度繰越金	92,455			事務費用	6,640	
昨活動年は、収入が4 53,175円(うち会費およ び寄付が214,720円、 昨年度繰越金92,455 円)、支出が369,817円 でした。収支のプラス部 分(83,358円)は次年 度繰越金とさせていただきます。	会費収入	164,720		振込用紙印刷		200
	イベント参加費	146,000		会報郵送料		4,130
	田植え準備		15,000	振替手数料		2,100
	亜麻の収穫(第1回)		5,000	封筒代		210
	田植え		5,000	研修奨学金	50,000	
	キャンプ準備		10,000	PhilDHRRAスタッフ歓待	18,000	
	亜麻の収穫(第2回)		5,000	イベント開催費用	245,177	
	キャンプ		105,000	田植え準備		24,618
	亜麻の脱穀		1,000	亜麻の収穫(第1回)		8,584
	木の家への寄付金	50,000		田植え		9,983
収入計	453,175			キャンプ準備		27,195
				亜麻の収穫(第2回)		9,082
				キャンプ		163,995
				亜麻の脱穀		1,720
				木の家への寄付	50,000	
				支出計	369,817	
				収支(次年度繰越金)	83,358	

詳細は右の決算表を
ご参照ください。



会費およびフィリピンの被災地への寄付のお願い

2012-2013年において、JaDHRRAは農村における、多くの活動活動に取り組んで参りました。従来から取り組んでいた田植えやキャンプに加え、亜麻の栽培にも取り組みました。また、学生と日本やアジアの農村を結びつける活動として、学生流村づくりプロジェクト『木の家』の活動への支援やフィリピンへのスタディツアー開催もしました。

これら多くの活動は、基本的にはイベント参加者からの参加費だけではなく、皆様からいただいた会費によって支えられています。今後もJaDHRRAの活動にご理解ご協力いただき、引き続き会員継続を賜れたら幸いです。

会費の納入は同封の払込用紙をご

使用いただくか、下記の郵貯の口座まで、1口2000円以上でお願いいたします。

また、同様の払込用紙で、フィリピンの被災地への寄付の募金も行ないます。募金を頂ける方は、通信欄に「フィリピン寄付」と寄付金額をご記入ください。

皆様のご協力、宜しくお願い申し上げます。

記号00920-6 番号267837
JaDHRRA



JaDHRRAの活動はウェブ上でも公開しています

<https://www.facebook.com/JaDHRRA>

お問い合わせ先

代表・藤岡秀英

fujiooka@habatan.econ.kobe-u.ac.jp

会計・山岡淳

ymok.ats@gmail.com